

地域医療連携だより

H16.2
創刊号



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL.0798-45-6111(大代表)
TEL.0798-45-6001(地域医療室)

理念 兵庫医科大学病院は、安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

特集 当院における腹腔鏡手術の現状と特色



特定機能病院

兵庫医科大学病院

信頼性の高い、医療の質の向上を進めています。



The Hospital of Hyogo College of Medicine

地域医療連携だより 発行にあたり

病院長 高光 義博

日頃は兵庫医科大学病院の診療業務にご尽力いただき心より御礼申し上げます。

さて、このたび「地域医療連携だより」を発行することになりました。地域医療室は平成6年に設置以来、病診・病病連携を円滑に進めること



を主な業務としています。ご紹介いただきました患者様や逆紹介の患者様の診察手続きや情報の提供、地域医療懇談会の開催、「診察のご案内」の医療機関への配布などを行ってきました。

現在、兵庫医科大学病院では診療体制の改変が急ピッチで進められています。新しい診療部門が設置され、それに伴い、あるいは世代交代により臨床系の新しい教授がぞくぞく誕生しています。また、診療の精度を高めるためマルチスライスCTなど最新の医療機器の購入を予定しております。このような診療業務に関する情報をできるだけ早くお知らせするため、これまでのご案内に加えてホームページの充実を図るとともに、「地域医療連携だより」を作成し、お届けすることになった次第です。日常の診療に少しでもお役に立てばと願っております。

新任教授の紹介



総合内科学 内分泌・代謝科 山本 徹也

平成15年8月1日より福地稔名誉教授の後任として総合内科学内分泌・代謝科を主宰させていただいております。昭和48年に奈良県立医科大学を卒業し、一年の研修後、昭和49年兵庫医科大学第三内科に入局しました。以来30年、一貫して兵庫医大に在職し、大学と共に日々を歩んでまいりました。研修医、医員、助手の時代を通じてはLogical Thinking and Deep Observationをモットーに臨床を中心として多くを学びました。研究に着手したのは助手時代の後半からで東野一彌現学長の指導で内分泌・代謝、特にプリン・ピリミジン代謝や脂質代謝の研究に力を注ぎました。平成14年度には臓器別内科移行により総合内科の福地名誉教授の内分泌・代謝科にかわりました。プリン代謝で重要な高尿酸血症に関しましては生活環境の変化に伴い年々患者数が増加し、今や生活習慣病の一つと認知され、その数も600万人以上に達しております。更に動脈硬化との関連も示唆され、プリン代謝の研究の重要性が増してきていますが、これらの研究を臨床的かつ基礎的な面から専門に行っている研究施設は西日本では当大学だけがあります。従って今後もプリン・ピリミジンの研究に加え、高尿酸血症に合併する臨床的、基礎的研究を、又、福地名誉教授のlife workであります甲状腺疾患も代謝レベルからの研究を続行していく所存です。臨床では甲状腺や副腎疾患等の内分泌疾患とプリン代謝や脂質代謝等の代謝疾患を中心に診療をしております。教室員一同、当科の特色を生かしつつ大学の更なる発展に寄与すべく頑張っていきたいと存じますので、どうか皆様方のご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



総合内科学 呼吸器・RCU科 中野 孝司

昨年の10月1日より呼吸器・RCU科を担当させて頂いております。内科の臓器別再編成に伴い、旧第3内科呼吸器と旧第5内科呼吸器が統合され呼吸器・RCU科となりました。従来通り、気管支喘息、難治性肺炎などの呼吸器疾患の全てを扱っています。呼吸器腫瘍、殊に肺癌と胸膜腫瘍(中皮腫)の診療と研究は専門的に行っています。治療成績は徐々に向上し、特に中皮腫は全国から治療を受けに来院されるようになりました。かつて、最も多くの国民を死に至らしめた肺結核は大きく後退し、代わって現在では肺癌が癌死亡の一位となり多くの国民を苦しめています。肺癌の克服は「肺癌世代」の呼吸器科医に課せられた大きな使命の1つです。喘息は吸入ステロイド療法を中心とした治療法が確立いたしました。間質性肺炎等は未だに有効な治療法がないのが現状です。新たな標準的治療法の確立を目指し、医局員一同、全力をあげて取り組むとともに、専門的医療と全人的医療をもって呼吸器疾患の中核病院としての機能を果たして行きたいと存じます。今までに頂きましたご厚情に感謝申し上げますとともに、今後とも呼吸器・RCU科に温かいご支援をお願い申し上げます。



皮膚科学 山西 清文

平成15年12月より、喜多野征夫名誉教授の後任として、皮膚科学教室を担当させて頂いております。私は昭和56年に京都府立医科大学を卒業後、大学院(生化学)を経て、福井医科大学、京都府立医科大学、三重大学医学部各皮膚科学教室で皮膚科全般の診療と卒前、卒後の医学教育、大学院の研究指導等に携わり、この間、角化症、水疱症、アトピー性皮膚炎、乾癬などの皮膚疾患の分子病態解明と新しい治療法の開発を目指して活動を続けてまいりました。兵庫医科大学皮膚科は、従来より地域に根ざした皮膚科医療の中核としての役割を担っています。今後もこのような教室の大切な伝統を重んじながら、皮膚疾患を全身疾患ととらえ、エビデンスに基づいた、科学的で心のこもった皮膚科診療を進めたいと思います。また、ポストゲノム時代に即応した研究手法によって、皮膚科学の進展にも寄与したいと望んでおります。浅学菲才ではございますが、皆様のご支援により、引き続き地域における皮膚科医療に貢献できればと念願しておりますので、どうか、ご指導、ご鞭撻を賜りますように、宜しくお願い申し上げます。

当院における腹腔鏡手術の現状と特色

このページでは、最新の医療や当院における様々な取り組みについて取り上げていく予定です。第一弾として、当院における腹腔鏡手術を特集しました。今回は外科編（第一外科と第二外科）です。

第一外科 肝・胆・脾を中心に

腹腔鏡手術が本邦に導入されたのが1990年であり14年が経過しました。この手術は胆嚢摘出術に始まり、その低侵襲性ゆえに爆発的な普及をみました。現在では胆道系のみならず、大腸、胃、食道などの消化管や脾臓、肝臓などの実質臓器にも応用されています。当科では、本邦における内視鏡手術導入初期より取り組み、安全でなおかつ低侵襲な結果を提供すべく活動しています。

以下には当科で行っている内視鏡手術のうち特色あるものを呈示しました。

1. 胆嚢摘出術：すでに腹腔鏡手術が標準術式として認知され、1000例以上を経験しています。この手術は各種カメラや鉗子を出し入れするポート孔が4孔で、手術人員を3人で行うのが一般的です。最近、当院ではポート孔を3孔にし、手術は2人でおこなっています。これにより患者創部の減少、ディスポーザブル機器の削減によるコスト減少や医療廃棄物の減少、また手術要員の削減に伴う余剰人員による医療サービスの再構築が実現されました。（3孔式は平成13年4月より導入し、症例数は100例を超えています。）
2. 脾臓摘出術：胆嚢摘出術の技術を応用し、2人法、3孔式、クリップレス（体内にクリップなどの金属異物を残さない手術）で手術を行っています。
3. 肝腫瘍切除術：当科では臨床経験に基づき、高度先進医療としての認定を厚生労働省に申請中です。
4. 腹腔内腫瘍摘出術：生検のアプローチが困難な腹腔内腫瘍（リンパ腫など）、低侵襲にて摘出したい腹腔内腫瘍などに対して、最近では内視鏡手術を応用しています。
5. 消化管手術：胃食道逆流症に対する噴門形成術、早期胃癌に対する幽門側胃切除術、大腸癌に対する大腸切除なども一般的に行い、また小腸のメッケル憩室切除や小児の先天性巨大結腸症に対する内視鏡手術も随時施行しています。

第二外科 消化管を中心に

腹腔鏡下手術は1990年に本邦に導入されました。我々、第二外科では1991年6月と本邦では比較的早い時期より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し現在に至っています。

上部消化管領域においては、現在、食道良性腫瘍に対する胸腔鏡補助下の食道切除術や、食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下根治術をはじめとして、早期胃癌症例やGIST症例の一部に症例腹腔鏡補助下幽門側胃切除術や腹腔鏡下胃局所切除術を行っています。腹腔鏡手術適応症例が限られるために現在までの胃切除症例は20例ほどですが、手術手技も向上し、今後早期胃癌の紹介が増加すればさらに多くの症例で腹腔鏡下手術が可能と考えています。

下部消化管領域においても、結腸癌に対する内視鏡手術を腹腔鏡下胆嚢摘出術と同様に早期より施行し、現在までに43例に腹腔鏡下結腸切除術を施行しています。その中には当科の代表的手術である潰瘍性大腸炎に対する結腸全摘、直腸粘膜剥去、回腸肛門吻合術についても腹腔鏡下に結腸全摘を施行した症例も含まれています。

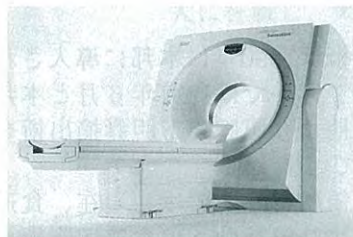
当科では胃、結腸といった消化管の手術や胆嚢摘出術のみならず、総胆管結石に対する総胆管切石術、肝細胞癌に対する肝部分切除術、肝嚢胞性疾患に対する肝嚢胞開窓術、ITPなどの血液疾患に対する脾臓摘出術、脾嚢胞に対する嚢胞開窓術、副腎腫瘍に対する副腎摘出術、ソケイヘルニア根治術、異物摘出術など多くの手術を腹腔鏡下に施行してきました。Laparoscopic Coagulation Shearsの改良やVessel Sealing System (LigaSure®) の開発など器械の発展はめざましく、今後さらに安全性の向上、手術手技の簡素化、手術時間の短縮が可能になり、新しい手術への腹腔鏡の応用が可能であると考えています。



機器の紹介

最新式16列マルチスライスCT撮影装置のご紹介

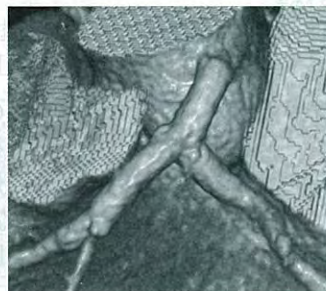
中央医療画像部門CT・MRI診断部では、此度ドイツ・シーメンス社製マルチスライスCT撮影装置「SOMATOM Sensation Cardiac」を導入、3月末から稼働致します。その背景・特長等をご紹介いたします。



装置の概観



心臓、冠動脈の3DCT画像



左冠動脈(ステント留置)

増える心疾患とCT検査

心疾患は日本人の3大死因に挙げられ、今後も増加傾向にあり、大きな脅威でもあります。

現在、循環器領域の撮像は、血管撮影装置による心臓カテーテル検査が主流ですが、本CTでは、外来検査で約30分と大幅に短縮され、患者様の負担が軽減され安全性も格段に向上します。

「SOMATOM Sensation Cardiac」の特長

撮像スピード「0.37秒/回転」という最速の撮像スピード、豊富な画像解析ソフトにより、従来型の16列CTより簡便で、より精密な循環器領域の検査が可能となりました。形態診断のみならず、冠動脈病変の評価や質的診断、心室容積評価や壁運動解析もより精密になるなどの特長を持っています。また高速な撮像スピードによる息止め時間の短縮などの特長を活かし、呼吸停止が難しい患者様の検査を可能とします。さらに造影剤投与量の減少や高感度検出器採用による低被曝撮影の実現等より低侵襲的で安全な検査が可能となります。高精細画像、簡便な画像処理による血管や骨などの3次元画像の描出や外傷時の単純撮影の省略等が可能となると思われます。

開放型病床のご案内

開放型病床は、予め病院に登録された医師が必要に応じて病院を訪問し、病院の医師と共同で、入院中の紹介患者様を診療・指導するための制度です。

当院では、開放型病床を5床設置していますので、ぜひともご利用ください。専門性の高い医療技術と高性能医療機器により急性期診療を行い、登録された医師と当院医師が連携しながら診療にあたっています。

「開放型病床ってなんだろう?」「開放型病床を利用したいが手続きが分からない。」等の疑問、質問等がございましたら、地域医療室までお気軽にお問い合わせください。

地域医療室 TEL 0798-45-6001
FAX 0798-45-6002

人事

教授の就任 2月1日付

増山 理 (マヤマ トオル) 総合内科学(循環器内科)
大柳 光正 (オヤナギ ミツマサ) 総合内科学(冠動脈・CCU内科)
宮本 裕治 (ミヤモト ユウジ) 循環器外科

表紙写真

平成15年10月1日にリニューアルした当院ホームページです。兵庫医科大学病院についての様々な情報を提供しています。どうぞご利用ください。

<http://www.hyo-med.ac.jp/>

禁煙のお知らせ

兵庫医科大学病院は平成15年12月1日より敷地内全面禁煙といたしました。

平成15年5月1日に「健康増進法」が施行され、「第25条 受動喫煙の防止」によって多数の者が利用する施設の管理者は受動喫煙を防止するための措置を講じる義務が課されました。つまり喫煙は医療上かつ個人的な問題だけでなく、公衆衛生上の問題となり、社会的、政治的課題であると考えられるようになってきました。国民の健康を守る立場にある医療機関が率先して禁煙運動に取り組むことが重要であると考えています。

関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

編集後記

この度、「地域医療連携だより」創刊号をお届けいたします。産声をあげたばかりで先生方のご支援なしにはひとり歩き出来ません。出来る限り役立つ情報を取り上げて、先生方のニーズに沿うよう努力して参ります。よろしく願いたします。(編集委員・地域医療室一同)

編集・発行

平成16年2月25日
兵庫医科大学病院地域医療室
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL 0798-45-6111 (大代表)
0798-45-6001 (地域医療室)
FAX 0798-45-6002 (地域医療室)